

災害時に備えた地域におけるエネルギー供給拠点の整備事業費

令和2年度予算額 30.3億円 (120.3億円)

うち臨時・特別の措置25.3億円 (115.3億円)

事業の内容

事業目的・概要

- 災害時には、住民生活や復旧活動を支えるガソリン・軽油等の燃料供給拠点となるサービスステーション（SS）の機能を確保することが重要になります。こうした状況を踏まえ、SSの災害対応能力を更に強化するため、以下の事業を実施します。

(1) 災害時に燃料供給拠点となる「住民拠点SS」の整備の推進

自家発電設備を備え、災害時に地域住民の燃料供給拠点となる「住民拠点SS」の整備を推進するため、SSの災害対応能力の維持・機能強化に必要な自家発電設備の導入を支援します。

また、災害時に円滑な対応ができるよう、住民拠点SS等における自家発電設備の稼働訓練、自衛隊や自治体等と連携した災害対応車両への給油訓練等の実地訓練及び自家発電設備の点検研修等を実施します。

(2) SS等における災害対応能力強化に係る設備導入支援

災害時に備えたSSにおけるガソリン、軽油等の石油製品の十分な在庫量を確保するための地下タンクの入替・大型化の支援等を実施します。また、津波被害地域等における燃料供給の早期再開を目的とした災害時専用臨時設置給油設備の導入を支援します。

成果目標

- 令和2年度末までに、自家発電設備を備えたSSを約17,000箇所整備するなど、SSの災害対応能力の更なる強化を目指します。

条件（対象者、対象行為、補助率等）



事業イメージ

(1) 災害時に燃料供給拠点となる「住民拠点SS」の整備の推進



平成30年北海道胆振東部地震や令和元年台風第15号の際に自家発電設備を稼働させて給油を続けたSS

災害対応能力強化のための研修・訓練



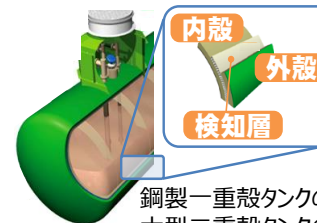
自衛隊を交えた石油組合と地元自治体の総合防災訓練

石油組合における災害時対応研修・実地訓練、バトカーへの緊急給油訓練

災害時の石油製品の安定供給体制を構築

(2) SS等における災害対応能力強化に係る設備導入支援

地下タンクの入替・大型化



鋼製一重殻タンクの撤去及び大型二重殻タンクの設置

災害時専用臨時設置給油設備の整備

